# 泉太郎　Izumi Taro

1976　奈良県生まれ
　　現在東京都在住

2002　多摩美術大学院美術研究科 修士課程修了

**主な個展**

2025　「③ Pre-surgery title[MC15/1400]: Inside a pocket → It's clashing/Outside a pocket → It's shaking…and something smells rotten in the air ④ Taro Izumi」關渡美術館、台北 – 2026
2024　「公開オペレーション :《ドリームランド》泉太郎」なら歴史芸術文化村、奈良
2023　「Sit, Down. Sit Down Please, Sphinx.」東京オペラシティ アートギャラリー
2022　「あへつくり」Capsule、東京
　　「コドクエクスペリメント」Take Ninagawa、東京
2021　「電源」Capsule、東京
2020　「ex」ティンゲリー美術館、バーゼル
　　「コンパクトストラクチャーの夜明け」Take Ninagawa、東京
　　「とんぼ」Minatomachi Potluck Building、名古屋
2019　「スロースターター バイ セルフガイダンス」名古屋芸術大学 Art & Design Center、愛知
2018　「家村ゼミ展 2018」多摩美術大学八王子キャンパス、アートテーク・ギャラリー、東京
　　「My eyes are not in the centre」White Rainbow、ロンドン
2017　「突然の子供」金沢 21 世紀美術館
　　「←連絡」Take Ninagawa、東京
　　「Night Lie」Galerie Georges–Philippe & Nathalie Vallois、パリ
　　「Pan」パレ・ド・トーキョー、パリ
2015　「わら時、ポ会の術 ( 多孔式豆腐における内臓体消失研究チーム発表会 )」Art Center Ongoing、東京
2014　「合同ピ、解放ポ」Take Ninagawa、東京
　　「No Night, Day Neither」Nassauischer Kunstverein、ヴィースバーデン、ドイツ

# TAKE NINAGAWA

2013 「連絡→」HIGURE 15-17 cas、東京
「眩む足場 / しびれる足に寄り添ううなぎ」hiromiyoshii roppongi、東京
「CSLab Exhibition vol.2: 泉太郎『貝塚と生活』」東京造形大学 CS-Lab、東京
「たしかめる」アーツイニシアティヴトウキョウ、東京
「皺の源」Galerie Georges–Philippe & Nathalie Vallois、パリ
2011 「ヤブ医者 / 髭の中」スプラウト・キュレーション、東京
「勇ましいあくび」hiromiyoshii、東京
「cloud, looks like a spider」NADiff Window Gallery、東京
「動かざる森の便利、不便利 : Tamagawa Art Gallery Projects 2011-2012 no.4」玉川大学、東京
2010 「こねる」神奈川県民ホールギャラリー、横浜
「捜査とあいびき」hiromiyoshii、東京
「くじらのはらわた袋に隠れろ、ネズミ」アサヒ・アートスクエア、東京
2009 「山ができずに穴できた」NADiff a/p/a/r/t、東京
「ヘルシンキ」Galerie Georges–Philippe & Nathalie Vallois、パリ
2008 「マジシャンのパン・日食」hiromiyoshii、東京
「junglebook」gallery stump Kamakura、神奈川
2007 「ゲーム台（倉）」buro13 by hiromiyoshii、東京
2006 「トロッコ」hiromiyoshii、東京
2005 「GeniusS Episode 1&2」Hiromi Yoshii Five、東京
2003 「ザイレント」麹町画廊、東京
2002 「バーゲン（仮）」Pepper' s loft Gallery、東京

**主なグループ展**

2026 「50 秒 Vol.2」soda、京都
「コレクション展 3 デジャ・ヴュ」金沢 21 世紀美術館
2024 「Faire Corps」ヴィラ・ダトリス財団、リル＝シュル＝ラ＝ソルグ、フランス
「Endeavours and Masterpieces」マルセイユ現代美術センター、フランス
「奇数ソックスとノード」アートギャラリーミヤウチ、広島
2023 「苦いみらい：黒木コレクション展」(with Sophie Calle) デカメロン、東京
山梨国際芸術祭「八ヶ岳アート・エコロジー 2023」
「ねこのほそ道」豊田市美術館、愛知
2021 「Try the Video-Drawing」TAV Gallery、東京
2020 「コレクション 1：越境する線描」国立国際美術館、大阪
2019 「開館 15 周年記念：現在地 - 未来の地図を描くために [2]」金沢 21 世紀美術館
「あそびのじかん」東京都現代美術館［ハンバーグ隊の一員として］
「百年の編み手たち：流動する日本の近現代美術」東京都現代美術館

# Take Ninagawa

2018　「うごくとまる」ハラ ミュージアム アーク、群馬
「Visions of Exchange: Mercedes-Benz Art Scope Award 2009–2017」Daimler Contemporary、ベルリン
「10th Anniversary」Take Ninagawa、東京
「Par amour du jeu 1998-2018」Magasins généraux、パンタン、フランス

2017　「In Focus: Contemporary Japan」ミネアポリス美術館、ミネソタ州、アメリカ
「Japanorama:1970 年以降の新しい日本のアート」ポンピドゥ・センター・メッス、フランス
「Japanese Connections」Nikolaj Kunsthal、コペンハーゲン
「メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2015-2017：漂泊する想像力」原美術館、東京

2016　「Une Forme olympique」（キュレーション：ジャン・マルク・ユイトレル）HEC キャンパス現代美術スペース、パリ
「Paradoxa. Japanese Art Today」Casa Cavazzini、ウーディネ、イタリア
「Paris – Frame & Out of Frame」Galerie de l’ Alliance Française、メンドサ；レシフェ；ジョアン・ペソア；メデジン；ペレイラ；マニサレス

2015　「Paris – Frame & Out of Frame」Galerie de l’ Alliance Française、ブエノスアイレス；コルドバ）
「われらの時代：ポスト工業化社会の美術」金沢 21 世紀美術館

2014　「Paris Champ & Hors Champ」パリ市立図書館ギャラリー
「コレクション II」国立国際美術館、大阪
「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画：クロニクル 1995–」東京都現代美術館、東京
「Japon」メマック市立現代アート・センター、フランス
「Portrait de 3/4」Galerie Georges-Philippe & Nathalie Vallois、パリ

2013　「Double Message」SCAI the Bathhouse、東京
六本木クロッシング 201「アウト・オブ・ダウト – 来たるべき風景のために」森美術館、東京
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2013、兵庫
「ユーモアと飛躍」岡崎市美術博物館、愛知
「Identity IX」nichido contemporary art、東京
「MOT コレクション 第 2 部：ぼくからきみへ – ちかくてとおいたび –」東京都現代美術館
「アートがあれば II–9 人のコレクターによる個人コレクションの場合」東京オペラシティ アートギャラリー
「であ、しゅとぅるむ」名古屋市民ギャラリー矢田

2012　「But Fresh」トーキョーワンダーサイト本郷、東京

# TAKE NINAGAWA

「Voice of Images」フランソワ・ピノー財団 /Palazzo Grassi、ヴェネツィア
「The Echo 2012 Berlin」Kunstraum Kreuzberg/Bethanien、Projektraum、ベルリン
「リアル・ジャパネスク – 世界の中の日本現代美術」国立国際美術館、大阪
「Humour, parodie et vidéos: créations vidéo du Japon contemporain」日本文化会館、パリ
「池田シゲルキュレーション展：縁側つなわたり・無理強いの計」Talion Gallery、東京
「泉太郎キュレーション展：有袋類」Talion Gallery、東京
「小金井アートフル・ジャック！バミューダトライアングル」シャトー小金井、東京

2011 「オムニログ : オルタネイティング カレント : 3.11 以降の日本現代美術」Perth Institute of Contemporary Arts、パース、オーストラリア
ヨコハマトリエンナーレ 2011「Our Magic Hour 世界はどこまで知ることができるか ?」BankART Studio NYK、横浜
「Invisibleness Is Visibleness: International Contemporary Art Collection of a Salaryman – Daisuke Miyatsu」台北現代美術館
「サイレント・ナレーター それぞれのものがたり」東京都現代美術
「JapanCongo: Carsten Hollers double-take on Jean Pigozzi' s collection」グルノーブル現代アートセンター ; モスクワ現代美術センター ; パラッツォ・レアーレ、ミラノ
「Shifting Surfaces : Experience, Perspectives and Media」アートソンジェセンター、キョンジュ、韓国
「暴力と宇宙」island、千葉

2010 「Trust: Media City Seoul 2010」ソウル市立美術館
「MOT コレクション 入り口はこちら - 何がみえる ?」東京都現代美術館
「City 2.0 - WEB 世代の都市進化論」Eye of Gyre、東京
「Media Landscape、Zone East」Contemporary Urban Centre、リバプール

2009 「日常 / 場違い」神奈川県民ホールギャラリー、横浜
「Twist and Shout: Contemporary Art from Japan」Bangkok Art and Culture Centre、バンコク
「Extra/Ordinary: Video Art from Asia」スペンサー美術館、カンザス大学、カンザス州、アメリカ
「Post.O: The Reverse of Topos」Garden City Space of Art、台北
ヨコハマ国際映像祭 2009「動物園にエイゾウがやってきた !!」、横浜市立野毛山動物園
「こども + おとな + 夏の美術館 まいにち、アート !!」群馬県立近代美術館

# Take Ninagawa

「ウィンター・ガーデン：日本現代美術におけるマイクロポップ的想像力の展開」Champasri Art Gallery、マハーサーラカム大学、タラット；Koala space、天津、中国；53 美術館、広州、中国；香港アート・センター；高雄市文化センター；マラヤ大学美術館、クアラルンプール；Muzium & Galeri Tuanku Fauziah、マレーシア科学大学、ペナン；Omani Society Fine Art、マスカット；M16 Artspace、キャンベラ；Gallery Central、パース、オーストラリア；メトロポリタン美術館、マニラ；龍頭山美術展示、釜山；安養ロッテ・ギャラリー、韓国；済州道立美術館、韓国；在大韓民国日本国大使館広報文化院、ソウル；ホーチミン市労働文化会館展示館；ベトナム国立美術博物館、ハノイ；シントラ現代美術館、ポルトガル；アリカンテ大学美術館、スペイン；Theocharakis Foundation Museum、アテネ；マルミタロ、ヘルシンキ；Gezira Art Center、カイロ；Tkach、サンクトペテルブルク；国立現代美術センター、モスクワ；エルンスト美術館、ブダペスト；メキシコ国自治大学付属チョポ美術館、メキシコシティ；トロント日本文化センター；日米文化会館ドイザキギャラリー、ロサンゼルス；Aberystwyth Arts Centre、アベリストウィス、イギリス；ローマ日本文化会館；ケルン日本文化会館；原美術館、東京

「Re: Membering - Next of Japan」Alternative Space Loop、ソウル

「ヴィデオを待ちながら：映像、60 年代から今日へ」東京国立近代美術館

「Unlimited」アプリュス (A+)、東京

2008 「Between Art and Life. Performativity in Japanese Art」ジュネーヴ現代美術センター

「Tokyo Nonsense」Scion Installation、ロサンゼルス

「The Echo」ザイム、横浜

「Landmark Project 3 国道 16 号線を越えろ！←野毛にいこう」横浜

「食と現代美術」BankART1929、横浜

2007 「Techniques of Storytelling - speaking of unspeakable」Samzie Space、ソウル

「Out of the Ordinary: New Video from Japan」ロサンゼルス現代美術

「Collector's Choice: Collection 2」デリーム現代美術館、ソウル

「夏への扉：マイクロポップの時代」水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城

2006 「After the Reality」Deitch Projects、ニューヨーク

越後妻有アートトリエンナーレ 2006「福武ハウス in 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」

「Theory of Everything: Videoart from Tokyo」Workstation Arts Center、北京；Tank.tv［オンライン］; Location One、ニューヨーク；ニューヨーク大学；Asian Cultural Council Office、ニューヨーク；国立台南芸術大学、中国；DongFang - The Cinema of the Far East、ナポリ；Process Room、アイルランド現代美術館、ダブリン

# TAKE NINAGAWA

2005　「ザ・ワールド・イズ・マイン」Hiromi Yoshii Five、東京
2004　「フィールド・オブ・ドリームズ」小山登美夫ギャラリー project room、東京
2001　ギャラリー・ルデコ、東京

**その他の活動**

2026　《Steak House》「Extended Views II」（企画 : カディスト、Simian）Simian、コペンハーゲン［スクリーニング］
2024　「アバター“ル”達の学舎のアバター“ラ”共」福岡アジア美術館［九州産業大学芸術学部写真・映像メディア学科における講義・ワークショップの発表展］
2020　《Steak House》「A/V: Artist Videos at the Drive-in」（キュレーション：The Exploratorium、Institute of Contemporary Art San José、カディスト、San José Museum of Art）West Wind Capitol Drive-In、サンノゼ、カリフォルニア州［スクリーニング］
2016　「ホーリーテンプルで豊かな屁」としまミュージアム、東京［ギューレーション］
2014　JINS Art ProjectJINS、吉祥寺ダイヤ街店、東京
2013　「hubn’t」Art Center Ongoing、東京［Orrorin メンバーとして参加］
六本木アートナイト、徒歩の屋根［泉太郎 +Orrorin として参加］
2012　「焚き火」blanClass、横浜
すみだ川アートプロジェクト 2012、アサヒ・アートスクエア、東京［山賀ざくろ ( ダンサー ) とのコラボレーション］
2011　「はい！僕です、本当に？オンゴーイング・スクール」Art Center Ongoing、東京
2010　吾妻橋ダンスクロッシング、アサヒ・アートスクエア、東京
「さまよえる三つ子の魂」荻窪ベルベットサン、東京
2008　トヨタ コレオグラフィーアワード 2008、東京［山賀ざくろとのコラボレーション］
2007　「Harajuku Performance+」ラフォーレ原宿、東京［山賀ざくろとのコラボレーション］

**スカラシップ、レジデンシー**

2018　Delfina Foundation、ロンドン
2017　SAM Art Projects、パリ
2015　メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2015-2017、ベルリン
2014　The Follow Fluxus - After Fluxus Grant、Nassauischer Kunstverein、ヴィースバーデン、ドイツ
2013　The Japan-UK Residency Exchange Programme 2013、Cove Park、ヘレンズバラ、イギリス

# TAKE NINAGAWA

**主なパブリック・コレクション**

Kadist Art Foundation

金沢 21 世紀美術館

国際交流基金

国立国際美術館

東京都現代美術館

JINS

ダラス美術館、テキサス州、アメリカ

セーヌ・サン・ドニ県現代美術コレクション

パリ市立現代美術コレクション

M+、香港

ジャン・ピゴッツィ・コレクション、ジュネーヴ

フランソワ・ピノー財団 、パリ

スペンサー美術館、カンザス大学、カンザス州、アメリカ